みんなでつくる Q&Aコーナー

お寄せいただいた質問の中から、みんなで知っていたほうがいいと思うものを紹介させていただきます。（皆様の質問をお待ちしています。）

Q

「さわやか」や「カートリッジ」に銀が使用されていますが、銀はからだにとって、害にはならないのですか？

A

一部の浄水器関連業者で銀の有害説を強調している会社があると聞いています。

最近は銀を使ったデオドラント製品や消臭剤など、数多く見かけるようになっています。細菌を殺してしまうようなものなら、人体にも悪影響があるはずと思うのはもっともな考えですが、実は銀（元素記号Ａｇ）は、抗菌剤だけではなく食品添加物としても認可されているのです。

銀は食器として使用されたり、入れ歯に純銀を使用したり、目の感染病の治療薬として硝酸銀溶液を使用したりするなど、はるか昔から私たちのまわりで使われてきました。

そもそも、銀イオンは体内に入っても塩化物イオンと結合して不溶性の塩に変わります。

銀イオンは胃酸の中の塩酸に触れると たちどころに不溶性の塩化銀（ＡｇＣｌ）となり、人体に吸収される心配はありません。もし飲み込んだとしても、そのまま体外に排出されます。

時々、水俣病の原因となった『水銀』を『銀』と勘違いして、銀まで有毒だと思い込んでいる人がいますが、銀は有毒な水銀（Ｈｇ）とは元素記号が違うように全く違う物質です。（歯科で問題を指摘されているアマルガムは、銀３５％以外に含まれている、スズ９％・銅６％・少量の亜鉛に水銀５０％が問題なのです。）

ごく身近な例としては、ケーキなどに使われる製菓材料のアラザンや、仁丹の表面の銀色にも銀が使われています。外国では直接、飲料水の殺菌に利用している国もあるそうです。

日本では水道法の水質基準で、有害性が認められる金属イオンについては、指標値が決められていますが、銀に関しては除外されています。

外国の例でもカナダでは当初０．０５ｍｇ／Ｌの規制値がありましたが、１９８９年の飲料水品質ガイドラインからは銀を削除しています。

アメリカの水質基準は日本とは比べ物にならないくらい厳しく定められています。（基準項目は日本で５０項目・アメリカは２６３項目にさらに１００項目の追加が検討されています。）

アメリカでは人体に対して少しでも有害と判明したものは、たとえ１項目でも即刻、基準項目に盛り込まれるそうです。

その厳しいアメリカの米国環境保護局（ＵＳＥＰＡ）の飲料水規則でも、基準項目（守らなくてはならない項目）に銀は入っていません。

ただし、推奨基準（必ずしも守らなくてもいい項目）に０．１ｍｇ／Ｌの規制値があるのみです。

【編集部】

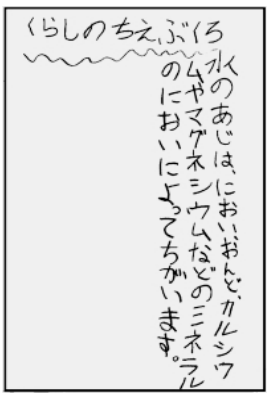
サンゴ浄水器を長年にわたって、ご愛用いただいている都内の方から、お便りをいただきました。

その中にこんな文章が入っていました。

浄水場見学会の案内が回覧板でまわってきたときに、それを見た小学２年生のお孫さんが、書いたレポートだそうです。

お水について、おじいちゃんがお話したことをちゃんと覚えているようですね。

瀬下実歩ちゃん、これからもいいお水をたくさん飲んで、お水の大切さを勉強してくださいね。ほほえましい内容だったので紹介させていただきました。



外出時の飲み物・食べ物にお使いください。

携帯用浄水ミネラルパック

「さわやか」

持ち運びに便利な携帯パック。さわやかは１リットルの水に１包を目安にお使いください。炭酸カルシウムやマグネシウムなどの必須ミネラルが豊富なお水が、簡単につくれます。ご飯やスープのあるお料理、お酒にも使えます。

■成分　１ｇ１包にサンゴ未焼成カルシウム 99.43%
Ｌアスコルビン酸ナトリウム 0.50%　銀　0.07%
１箱（1ｇ×5 包×10 袋）　1,680 円
お得な３０袋入り「さわやか３０」4,725 円